

### グローバル人材育成プログラム を通して

川 波 龍 弥

Tatsuya KAWANAMI

機械システム工学科 3年

#### 1. はじめに

私は2019年8月16日から9月2日までのおよそ2週間、アメリカのカリフォルニア州サンフランシスコ及びサンノゼで企業見学や研修を行った。最初の3日間はサンフランシスコ・シリコンバレー周辺の企業を訪れ、講演会を聞いたりし、残りの2週間はサンノゼにある企業で研修に参加するというスケジュールだった。今回の渡航の目的は「ホームステイ先の人や研修先の人たちと積極的にコミュニケーションを取り、日本人とアメリカ人の考え方やワークスタイルの違いを実感する」ということを目的とした。

#### 2. 企業見学ツアー

初日にFitbitというフィットネス関連商品を専門にしている企業に行き、社員の方からお話を伺った。その方のお話によると、世の中の成功者は皆失敗を経験している。失敗した方が後のためになるため失敗を恐れず何にでもチャレンジする方がよいと言っておられた。そして、一番ダメなのは失敗を恐れ何も行動を起こさないことだと教えてもらった。それを聞いて私もこれからは様々なことに果敢にチャレンジしてみようと思った。

2日目の夜にサイボウズ副社長の山田様の講演会に参加した。講演会では、今の若い人たちはネットなどを通して世界中の情報を瞬時に入手できる。これからの時代はどれだけの知識や情報を備えているかではなく、どれだけの情報をネットなどを通して引き出せるかが重要になってくると言っておられた。それを聞き、技術の変化は常識の変化をもたらすのだと実感するとともに、目まぐるしく変わりゆ

く時代の変化に遅れをとってはならないという危機感を覚えた。

#### 3. 研修先企業の概要

私がお世話になった企業は“The Way Auto Care”という自動車の修理や塗装、タイヤ交換、オイル交換など自動車全般に関する幅広いことを行っている企業だった。従業員は韓国人やアメリカ人、メキシコ人など様々な国籍の方が働いておられた。従業員の方たちは、休憩したいときに休憩をとったり、音楽を聴いたり、電話をしながら仕事に取りかかるなどみんなのびのびとしていて、すごく自由な感じのところだった。

#### 4. 研修内容

自動車全般に関わる様々な作業を体験させていただいたのだが、そのいくつかを紹介する。まず最初に任された作業は洗車だった。車のボディを洗う前にまずは車の中からきれいにしていく。掃除機やブロワーと呼ばれる勢いよく空気が出る装置を用いて、車の中に溜まったほこりやゴミを除去していった。その次に、洗剤スプレーとタオルを用いてシートやハンドル周りなど車内の全てのインテリアを抜き取り磨いていった。そして、ガラスコーティング剤と新聞紙を用いて、車の内側の窓を力強く磨いた。続いて、メインの洗車の作業に取りかかる。まず、高圧洗浄機を用いて、車に付着している砂やほこりなどを入念に落としていった。このときに、車の付着物をしっかりと落としておかないと洗剤で車のボディを磨く際に、傷がついてしまうことがあるので、この点に注意しながら作業を行った。次に、洗剤の入ったバケツにモップを入れしっかりと洗剤に浸してから車のボディを入念に磨いた。そして、高圧洗浄機で車全体の洗剤を洗い流した。その後、車のホイールもスポンジに洗剤をつけ、磨いたら水で流すといったかたちできれいにしていった。洗車をしている際に注意しなければならないのが、洗車中はどの作業もテキパキとこなしていかなければな

らないことだ。研修をしている最中は気温が高く、洗剤のついた車をそのままにしておくと暑さで洗剤が乾いて、水あかができてしまうため、テキパキと作業をこなすことを気に留めながら作業を進めていった。

続いて、タイヤ交換の作業を任された。車をジャッキの上にのせてリフトアップし持ち上げた。タイヤを締め付けているボルトをインパクトレンチを用いて取り外し、古くなったタイヤも取り外した。この作業を4つのタイヤ全てで行った。そして、新品のタイヤを取り付けるのだが、新品のタイヤはゴムが硬かったりするので、きれいに回転しなかったり、回転ムラができたりする。なので、車に取り付ける前に機械でどれほどタイヤがアンバランスなのかを確認してから、それを修正するためにホイールの内側におもりのようなものを取り付けた。その後、バランスのとれた新品のタイヤをインパクトレンチを用いて車に取り付けた。このとき注意しなければならないのが、ボルトを締め付ける順番を対角線上にすることだ。時計回りや反時計回りに締め付けると、力が偏ってしまいタイヤが浮いたりしてきれいに回転しないからだ。



## 5. 研修を通して

研修の最初の頃は、整備場の清掃やゴミ捨てなどの雑用を任されることが多かったのだが、日を追うごとに徐々に専門的な作業も任されるようになり、仕事に対してやりがいを感じるとともに、それだけ周りからの信頼感も感じ、緊張感を持って仕事に取りかかることができた。そして、タイヤ交換やオイル交換などのより専門的な作業を任されるようになり、そういった作業をしているうちに、自分のしている作業がどれほど責任感のある作業なのかを実感した。タイヤ交換において、タイヤを締め付けるボルトが1本でも緩んでいると走行中に大事故につながる可能性がある。そうゆう意味では、お客様の命を預かっているのも、とても責任感のある仕事をしているのだと身を持って実感した。また、企業で働く上で、責任感や信頼感、やりがいなどは、非常に重要な要素であることを学んだ。

## 6. おわりに

2週間の研修を通して様々なことを感じたり、学んだりした。現地の方たちは、あまり時間に追われることなく、自分の時間を大切にしながら働いているように感じた。そういったところも日本とは異なった点であると分かった。

研修中は自分の作業が終わるたびに上司に「次は何をやればいいですか」と伺っていたのだが、上司にどうするべきかを聞く前に、次はこれをしなければならないなど自分自身で正しい判断を下していけば、より良かったのではないかと考える。今の自分に足りないのは主体的に行動する力であるとわかったので、これからはこのことを改善していくのが課題である。これから、大学の研究室に配属したり、授業で仲間とともにプロジェクトに取り組んだりするので、そういった機会を利用して、課題の克服に挑戦していきたい。